

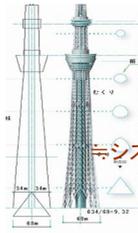
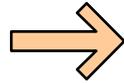
成功には秘訣が、失敗には教訓が！



Project A



千年・2千年の風雪に耐えられる建築技能をもった職人(宮大工)たちがいて、徒弟制度によって 受け継がれてきました。



システム設計における心柱

参照:心柱とシステムデザイン図

「自己ゆらぎ制御仕組み」をシステムデザイン段階で組込む標準手法の確立

1: BOK Method × 2: 「ゆらぎ」を許容する遊び部分 × 3: 参加者の絆



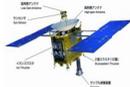
石垣の敷石



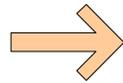
自己成長過程=気づき×自己目標

Project B

「はやぶさ」
「TMIプロジェクト」



想定外の故障、電波喪失、エンジン故障...
補償光学技術、膨張ゼロ硝子の開発...



サンプル・リターン

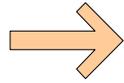
成功プロジェクト

失敗プロジェクト

Project X



想定外の電源喪失



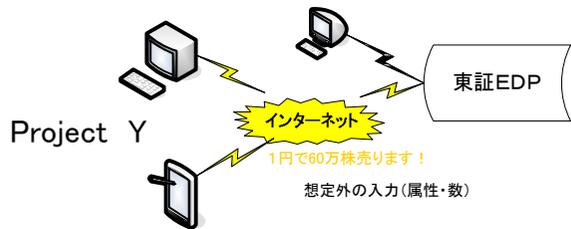
爆発

廃炉処理
放射線影響

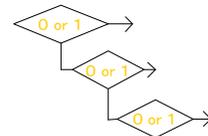
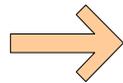
¥20兆〜→遺伝子

作り上げる技法に集中し過ぎる

既存の枠組みでは対応しきれない課題が必ず存在する。



作り上げる技法に集中し過ぎる
遂行管理>環境変化



¥450億円

日本の市場レピュテーション失墜

既存の枠組みでは対応しきれない課題が必ず存在する。



ゆらぎ制御技術のシステム内ビルトイン

システム・デザインと要求の本質
1年〜 経済的合理性(システムライフ)
8~10年 製造物責任(PL法)、自動車/TV数万点部品
2~30年 家の瑕疵担保、橋・水道工事
4~5/60年 航空機、コンピュータプログラム
100年 原子炉技術?
1000年 遺伝子?

日本における失敗・成功プロジェクトの実態調査

成功プロジェクト
途中でどんな危機があり、どんな対応・手法をとったか?
Project A
Project B
Project C

失敗プロジェクト
Scope変更が危ない...と感じたか、誰も気づかなかった理由は? 原因どこに!
Project X
Project Y
Project Z

比較検討: 要因や対処方法

- 仮説① スコープ乖離∝システムデザイン力 → 共製手法の体系化
- 仮説② 成功向上度合い∝PMBOKに無い部分があるか → BABOK?
- 仮説③ 文化・土壌の障壁∝スコープ余裕度差に現れるか → Japan Methodologyの研究

分解・構成アプローチと構造化されない主体アプローチ